
A～エース～

reruka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A〜エース〜

【Nコード】

N2055F

【作者名】

r e r u k a

【あらすじ】

滋賀の弱小中から名古屋の名門高校に野球留学した裕紀。そこで繰り広げられる戦い！

第1球：入学式

ここがあの有名な愛知県立名古屋北高校。

今日オレはこの学校に入学します。

何が有名かって？野球です。オレは無名の滋賀の湖南中から来たピッチャーです。

ここでは、1年38人2年41人3年36人合計115人もいる強・いや名門校です。

朝6：30

『おはようざいまーす』

一斉だ。入学式の前に推薦の人は練習するみたいだ。知ってる人など1人もいない。すると、そこに1人やってきた。

「ねえ？キャッチボールしない？」

話しかけたのはなんと九州の福岡西中のキャッチャー坂口だった。

「まあいいけど。」

始めた。無言のまま続く。坂口は全日本（中、小）に選ばれた天才だ。

オレ？オレは、滋賀最弱校のピッチャー・・・。

とゆう会話を交えつつキャッチボールが終わった。

「なあ；お前変化球とかある？」

え？若干あきれつつ言われてびっくりする。

「あるよ」

まあスライダーとチェンジアップ。

「ふーんじゃあ投げてみてよ」

ええ！？

「いやブルペンとか・・・。」

沈黙の後に坂口が監督のところに行き交渉している。

「監督が見てたら良いって。」

オレは高校初投球に行くことにした。

第1球：入学式（後書き）

楽しんでください

第2球：天才

「バッターも立つの!？」

その声にびつくりした様子の坂口。

でも、投げる以外道はない。っぽい。

振りかぶるザッヒュン!ズドン!!

「どう？」

「良い球投げるじゃん！」

え?ウソ:褒められたよ;

その後30球くらい投げてあがった。

そして1軍、2軍、1年と分かれて紅白戦。これで夏の予選のメンバーが決まる。

まあ6月から始まってそれまで毎週試合だったなら納得もいく。

「1年チームキャプテンは坂口。2軍は魚沼。1軍は山岡。分かったな。」

「はい！」

うえゝ坂口キャプテンかよゝメンバーどうするんだろう?

「メンバー発表!!1年チーム・・・」

監督決めの!?

「4番坂口！」

うお!4番?やばあー

「9番は投手岡田！」

え?オレー?やめて1軍相手にえー!?

.....

「ゲームセット！」ハアハア;

9回まで投げた;

「3-1で1軍の勝利！」

ああー;負けちゃったか

次の2軍戦は3回まで投げて無安打。1軍とはまるで違う。

2軍は簡単だよ。でもコノチーム2軍もレベルが高い。

「1年坂口！岡田！至急部屋前まで！」

え：なに：怒られるの？何したって言うノー

「お前らは夏予選メンバーに入ってもらう。なので早いがもうゼツケンはつけてある。」

坂口！背番号12岡田！背番号20！あと吉田背番号1！」

え？吉田？1年生？えーこの男と今後熾烈なエース争いを繰り広げる事になる・・・

「天才だね。圧倒的だよ」

監督によるとこのチームで1年1番は初めてらしい。

しかしそれほどの選手だ。雑誌では

『天才ピッチャー巨人入りか！？』

とも報道されている。

『阪神、西武、ソフトバンクも名乗り上げ！？』と。

でもオレの記事もあった。

『千葉ロッテ15歳岡田（名古屋北）獲得？』

するわけない。交渉も来ていない。それにオレは、まず甲子園だ。天才がいてもオレは背番号1しか！

「なあ明日1軍試合だってよ」

「吉田！？てか；」

どここと？聞かなくても分かってくれた。

「東京学院だつて。」

名門とやりますか；

試合当日！！

第2球：天才（後書き）

面白い。。。展開ですか？

第3球：天才VS未来

東京学院戦。

「よし今日のスタメンは

1番 遊 西岡

2番 二 大木

3番 左 長岡

4番 三 水本

5番 一 李・順雀

6番 中 横田

7番 捕 坂口

8番 投 吉田

9番 右 小松でいく。」

1年は2人。2年は3人、3年は4人だ。

1回。吉田はなんと三者連続三振に抑えた。春のセンバツ準優勝校なのに；

裏は、相手ピッチャー中田に三者凡退。

2回。吉田は5者連続三振に。しかし2アウトでのホームラン。そこから崩れ一気に2点を加えられ3 - 0に。

裏。攻撃陣に元気がない。3回。

「岡田。ブルペンに入っておけ。5回からいくぞ！」

「はい！」

今日は、わざわざ東京から来てもらっている。だから相手に対して気を抜いてはいけない。

カキーン

「え！？」

吉田？今日は調子が悪いみたいだ。でもこんな簡単に。

このチームの1年生エースがこんなにも簡単にやられている。スカウトマンもこのピッチングは見られないようで帰っていった。こんなチームオレが抑えられるのか？

突然心配になった。吉田も坂口も出ている。オレは坂口のおマケか？いや違うはずだ。

でもこんな天才が打たれている。そうこう考えているうちに5回が来た。

「岡田。お前はやっぱり出なくていい。2軍で走っとけ。ロクにブルペンで投げずにボーッとしてる奴は

いらぬ。よしじゃあ橋本お前いつてこい！」

オレはこんなチーム入らなければ良かったと思った。

バスケにでも行けば良かった。

『お前のピッチングはいずれ日本の背番号1（エースナンバー）を背負うぞ』

監督？入学式に言われたな。何してるんだ？オレは？

このチームのエースになるんじゃないかったのか？クソウ！クソオ！オレは後悔した。

「ねえ君もしかして名古屋北の選手？」

現れたのは東京学院のスカウト。どーなの？オレは？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2055f/>

A～エース～

2010年10月21日23時03分発行